

## 8 - 5 被災後撤去区画（空地）の現況調査

### 8 - 5 - 1 調査方法

空地の利用状況は，予備調査などから表8 - 6に示すような4タイプに分類した．地域内の全ての空地を目視によりどのタイプに分類されるかを判断することで調査した．調査に基づく集計結果の詳細は，8 - 3の表8 - 5に示す．

表8 - 6 空地の利用状況タイプ

利用状況タイプ	例	備考	利用状況タイプ	例	備考
雑草		雑草が生い茂り、野放し状態になっている土地	車が停められている（駐車スペース）		更地に、車が継続的に駐車している（と思われる）土地
更地		比較的開けた空き地で、再建の可能性の高そうな土地	駐車場として利用されている		駐車場として利用されている土地。更地でも駐車場として営業されていると思われる土地も含む

### 8 - 5 - 2 空地タイプ別の地区内利用状況

図8 - 2 1にタイプ別空地の空間分布を示す．図8 - 2 2は，各調査対象地域（郡家，江井に加えてこれまでも同様に調査を続けている他地域，北淡町室津，津名町志筑も合わせて示した）に対して空地タイプ別の現況を区画数および構成比で比較したものである．

空地タイプ別の区画の空間分布は，郡家地区では，更地は全域に分散しており，駐車場は町役場周辺の北東部に多く見られる．駐車スペースとして利用されている空地は，全域に分散している．一方，江井地区では，東部の中心の住宅密集地域に更地が集中しており，それに対し，西部の沿岸地域に雑草が生い茂って放置されていたり，車が停められている空き地が多く見られる．

全区画に占める空地区画数は，図8 - 1 1から約15%（郡家），約10%（江井）であることがわかる．その内訳は，図8 - 2 1に示すように駐車場が郡家，江井ともに約20%を占めている．他の調査対象地域と比較すると郡家，江井ともに駐車場，駐車スペースとしての利用の割合が高くなっている．特に江井は件数が少ないものの大半が駐車スペースとして使われている．

### 8 - 5 - 3 空地タイプ別の発生時期

現時点の空地利用状況別のその発生時期を把握するために，空地区画における撤去時期別の区画数と構成比を図8 - 2 3に示す．

郡家地区では，タイプに関係なく空地の約80%が震災直後の6ヶ月中に発生している．江井では，駐車スペースとして使われている区画の約60%が1996年に，25%が1995年中に，残りが1997年中に発生している．駐車場は，1995年中，1996年から1997年中に50%ずつ発生している．対象地域全体では，空地の大半が1997年ま

でに発生している事がわかる。

このように，現存する空地のほとんどは，早期に撤去された区画が，震災後5年間も放置されたものであり，今後も空地のままの状態が続く可能性が高いと考えられる。

### 8 - 5 - 2 空地タイプ別の撤去時期別残存状況

図8 - 2 4は，横軸に撤去時期別の区画数を取り，その内訳を空地タイプ別，再建時期別に示したものである。各時期の撤去数は年々減少し，その内の空地区画数はそれ以上に減少している。つまり，全区画に占める空地区画の割合は，直後が最も高く，時期を追うごとに減少していることがわかる。このことから，早期に撤去されたものほど空地として残りやすい傾向にあることいえる。

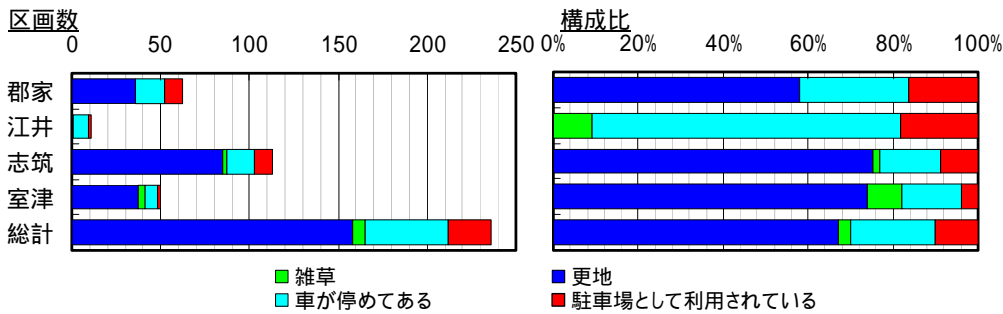


図8 - 2 1 地区別空地利用状況

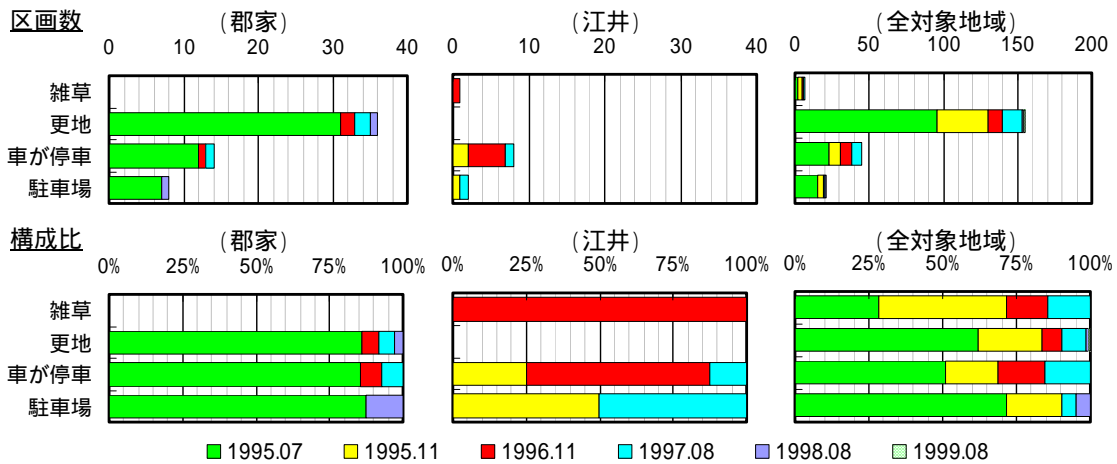


図8 - 2 3 空地の撤去時期別区画数および構成比

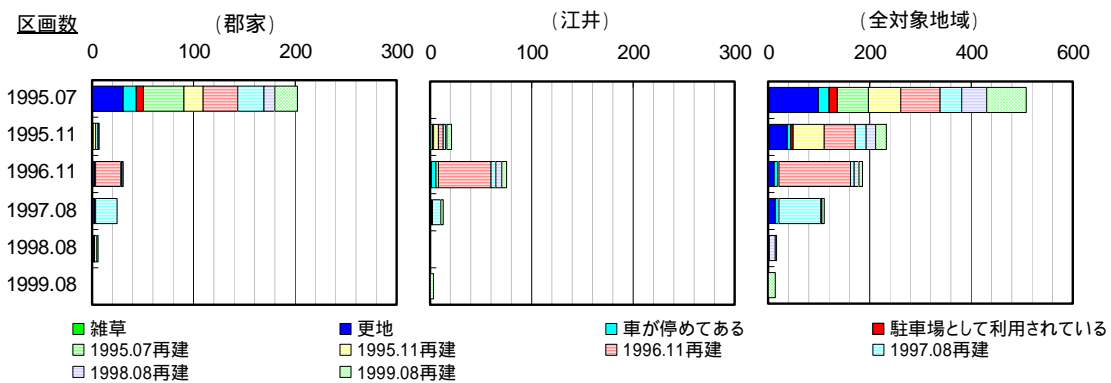


図8 - 2 4 撤去時期別空地残存状況

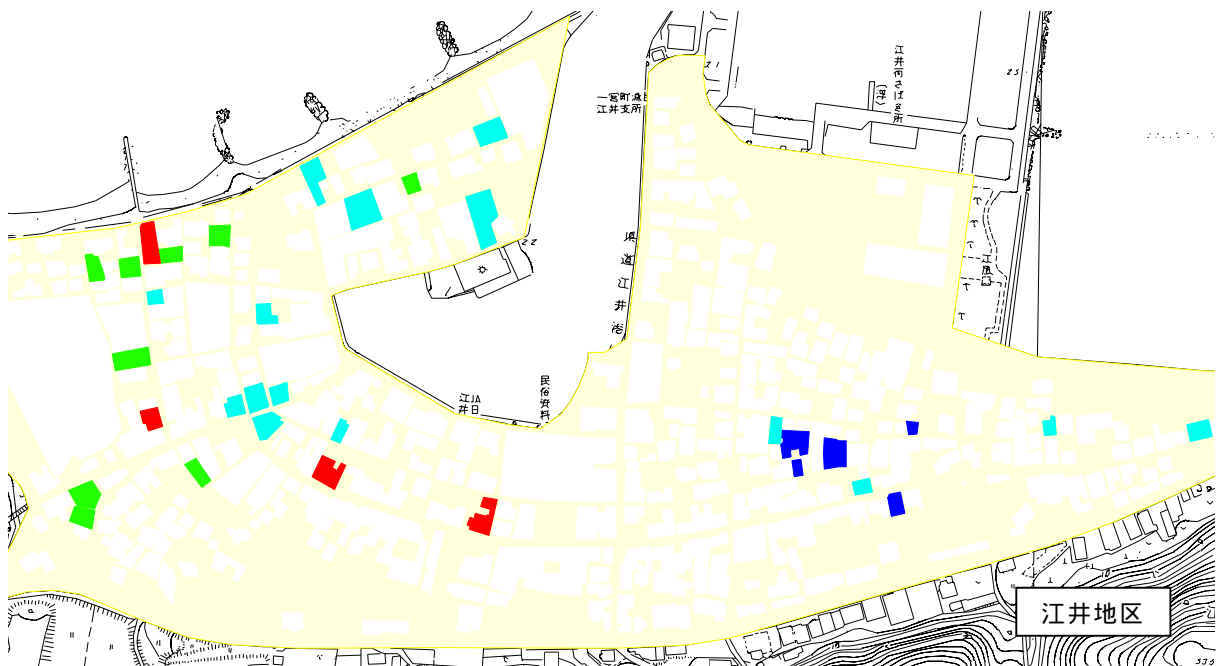
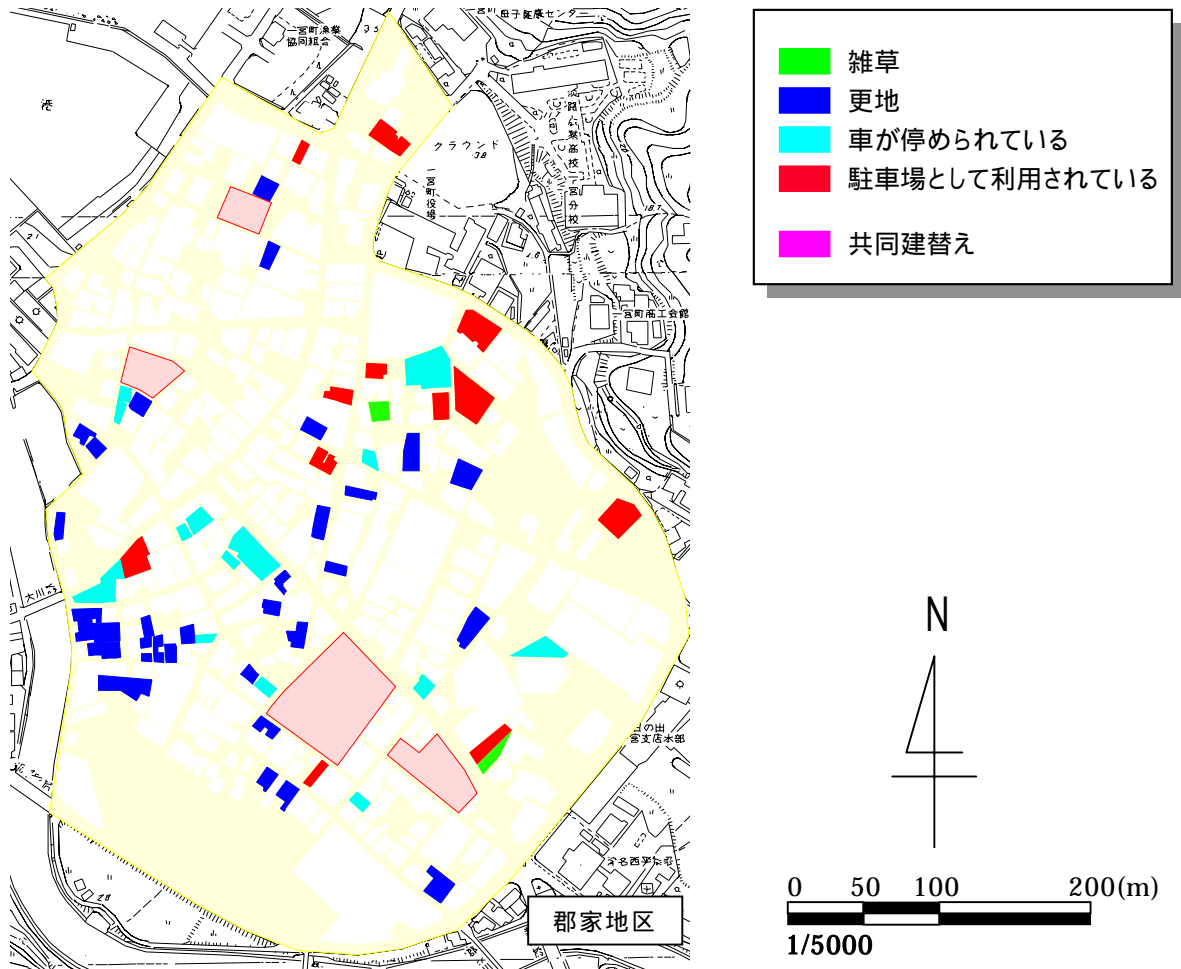


図8-21 空地タイプ別空間分布